

アプリゲーム感覚で 知識を定着させる ～「Quick Check」活用術～

J大学 Y.K. さん

模

試の結果に愕然…
そんなときに出会った「QC」

私が「Quick Check」(QC) を使い始めたのは、6年生の7月頃でした。ポリクリも終わり、回っていた科の『クエスチョン・バンク』(QB) を1周して、自信满满で模試に臨んだのですが、一般の得点率が臨床の得点率と比べて10%ほど低く、愕然としたのを今でも覚えています。

そんな時に、『INFORMA』の夏号をバラバラとめくっていて、「QC」という一問一答サービスがあることを知り、その場でスマホアプリをダウンロードしました。

達

成度ゲージでモチベーション↑

QCのいいところは、**携帯の電波さえあればどこでも勉強できるという手軽さ**です。通学中や休憩など、ふとしたスキマ時間を使ってちょこちょこ解いていきました。

QCには**3周分のチェックボックス機能**があるので、まず1周目は、苦手な分野からやることにしました。1分野ずつ結構な量があり、途中で飽きそうになってしまうのですが、電車内などで周りが携帯ゲームで遊んでいるのを見て、私も**「各分野の達成度のゲージを早く満タンにしよう！」**とゲーム感覚で解き進めました。

8月下旬から2ヵ月間の卒業試験期間に突入し、慌ただしく月日が過ぎていきましたが、毎日少しずつ解いていたおかげで、試験期間が終わる頃には、QCを

1周解き終わっていました。

復

習したい問題を使い慣れた教材に転記

卒業試験後の11月は気が抜けていたのですが、その間も移動中などの時間を使って、**QCの2周目だけは進めました。**

直前期の1月頃からはQCの3周目として、**間違えた問題と復習のタグをつけた問題**を解きました。なかなか正解できない問題や、国試前にもう一度復習したいと思う問題は、「イヤernote」、自作のまとめノート、直前期にやり込んでいたテキストの3つに書き込み、**何度も目にするようにして復習に努めました。**

結果として医師国家試験の本番では、一般と臨床の得点率が5%近く縮まり、全体的にもスコアアップすることができました！

最

後に

試験前日の夜、今までやったQCやQBオンラインの達成度を眺めることで達成感を得られたし、今までやってきたことを再確認して自信を持つことができました。

今振り返ると、私にとってQCは**知識定着のキープアイテム**、さらには試験直前の精神安定剤でした。

皆さんも何かコツコツとやっているものがあると、当日安心して試験に臨むことができると思います。

QuickCheck とは？

- QuickCheck (QC) は、一般問題と画像問題の攻略に特化した WEB アプリです。一般問題を選択肢ごとに○×チェックできる「1問1答モード」と、画像だけを見て診断を当てていく「画像診断モード」が使えます。過去問演習をひと通りこなした後、弱点をつぶすために活用してください。

1問1答モード



QBオンライン
登録で使える！

80~110回*の
一般問題を選択肢
ごとに1問1答化
*2017年内に111回
国試も追加予定

QBオンラインの
成績を反映可能！

○×で解答、解説
もサクッと確認！

画像診断モード



近年5回分(マイ
ナーは10回分)
の出題画像をフラ
ッシュカード方式
でCheck!

「診断」をタップ
して解答を確認!

QuickCheck (β版) の利用条件

- QBオンラインのログインで利用可能
- スマホ、タブレットで動作 (PC不可)
- 2018年3月31日までは無料で利用可能
- ※以降の仕様・料金体系は未定

点差をつけるマイナー対策 ～画像問題を貴重な得点源に～

T大学 Y.M.さん

私が国家試験の勉強を始めたのは6年生の4月頃でしたが、マイナー科目に関してはポリクリの時を除いて、本格的に始めたのは卒試の時期でした。参考書に関しては暗記事項がまとまっていて持ち運びやすい『レビューブック マイナー』（RB）を選びました。

R BとQBの組み合わせで効率よく

マイナー科目はマイナーと言いつつも得点差がつくことが多く、またしっかり勉強していれば得点源にしやすい分野でもあるので、**RBで暗記事項をおさえながら『クエスチョン・バンク』（QB）で問題に慣れていく**という勉強をしました。

卒業試験の時に、まず科目ごとに**RBの赤字の部分（重要なキーワード）**を覚え、マイナーのイメージをつかむために**QBを一通り（全問）解きました**。マイナーは意外と暗記量が多い科目でもあるため、**メジャーを重視しすぎて後回しにしすぎると、国試前に間に合わず焦りかねません**。私はこの時期にマイナーを一通り解き終えることができたので、その後の国試対策にも余裕が持てました。

卒業試験が終わり、一通りメジャー科の復習が終わった段階で、**RBの黒文字も含めて目を通し、もう一度QBを解きました**。近年の国家試験では、一般問題などで選択肢が難しいこともありますが、RBの黒文字の部分を含めてしっかり読み込んでおけば対応できるものがほとんどでした。RBには出題された国試の年度や必修の出題項目（必修マーク）が書いてあるので、**過去5年以内の出題がある疾患や、必修マークが付いている疾患**に関して特にしっかり覚えるようにし、過去に出題のないものや出題の少ない科目（整形外科など）は軽く目を通す程度にしました。メジャー科目をしっかりやらないといけない分、時間をあまり作れないマイナー科目は、メシュランの星の数なども

参考にし、効率よく勉強することが大切だと思います。

画像一発問題は得点源！

マイナー科目は画像の出題が多いですが、RBには画像も載っているので、用いる参考書としては大変便利だと思います。国試で出題される画像は、**一見真新しく見えるものでも、過去に使われた画像を上下左右反転させたものなども多い**ので、画像をしっかりと見おくことはマイナー科目の点数を伸ばすうえでとても重要だと思います。QBの前のにも画像が載っているので（編集注：巻頭カラーページ）、国試前にはその画像だけを見て、何の疾患かがわかる状態にしておきました。特に眼底所見や鼓膜の画像はよく見ておいたのですが、実際、QBに載っていた画像と同じものが、私が受験した111回国試にも出題されました（111I52：緑膿菌による角膜潰瘍の問題（QB2017 R-46）、111A49：反回神経麻痺の問題（QB2017 S-79）など）！ 問題を見てすぐに疾患が分かったので、解く時間の短縮にもなりました。

マイナー科目は軽視されがちですが、特に精神科は出題量も多く、必修でも出題されます。RBにはQBではあまり取り上げられていない疾患もまとめて書いてあるので、目を通しておくだけでも得点源になるはず。国試当日も疑問に思ったことを調べたりと活用方法はたくさんあるので、常に手元に持っておくと便利だと思います。



医師国家試験のためのレビューブック
マイナー 2017-2018
第7版 A5変型判 696頁
2016年10月発行
定価（本体6,000円＋税）

直前期を無駄にしない！ 合格のための必須事項

T大学 D.S.さん

国家試験対策で一番重要な時期は直前期と言っても過言ではありません。直前期は、ある人にとっては何度も学んだ分野をじっくり復習する時期に、またある人にとっては勉強不足を補うべく短時間で追い込みをかけて知識を完成する時期ともなります。私が直前期に行った勉強は、国試の過去問3年分と、模試2回分、『QB必修』と『QB公衆衛生』、予備校の直前講座でした。それぞれどのように活用したのかを紹介したいと思います。



国試の過去問3年分

国試の出題委員の中には、前年度の国試から引き続き問題作成を担当している先生もいます。次に受ける国試の出方を窺うために、私は過去3年分の問題を解きました。そのとき重要視したのは問題の正答率で、**70%以上は落としてはいけない問題、40%以下はリベンジ問題として再び出題される可能性が高い問題**と考えて解いていました。過去問3年分は、正解だけでなく、**間違い選択肢も含めて、問題を暗記**するようにしました。



模試2回分

模試は国試のガイドラインに沿って作られているので、試験後はすぐに解き直しました。ここでも正答率を重視し、70%以上の問題は重点的に復習しました。

受験した模試の中で特に重視したのは、1月に行われた某予備校の模試です。**国試の問題は過去問がスタンダードですが、それでも毎年何かは新作問題が出題**されています。1月の模試は、今まで解いていた過去問集では足りない知識が補充されるつくりになっていたため、新問対策にも役に立ったと思います。



B必修・公衆衛生

必修と公衆衛生は点取り分野であるので、『QB必修』と『QB公衆衛生』をそれぞれ3日で1周するペースでほぼ全範囲を復習しました。また、『QB必修』と『QB公衆衛生』には予想問題が収録されているので、**新たな知識を取り込むために予想問題も解きました**。



予備校の直前対策問題集・講座

直前期に配られる予備校の問題集は、短期間で全範囲を繰り返し解くことができるのでおすすめです。収録されている問題も、学習効果の高いものが多かったです。また、予備校の直前予想講座は、毎年会場に行くタイプとオンラインで視聴するタイプがあります。私は前者を選んだのですが、実際に会場に足を運んでみて驚いたのは、受講している受験生の多さです。視聴している受験生が多いということは、**極端な例ですが、予備校の講師が予想していなければ正答率が20%くらいの問題が、講師が予想を的中させることで正答率が80%くらいに跳ね上がり国試本番で落としてはいけない問題になってしまう**ということです。あくまでも予想なので、的中率はそんなに高いとはいえませんが、直前期は藁にもすがらる思いで過ごすことが多いので、とってよかったなと思いました。

以上が、私が行った直前期対策です。直前期は、時間との勝負、自分のメンタルとの勝負がメインかもしれません。しかし、ゴールは目前です。踏ん張って、時には周りの同級生や家族を頼って国試を乗り切りましょう。